

令和6年度 山梨県立農林高等学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針	『誠実の人となれ』の校訓のもと、自主・自立・連帯の精神と実践力を養い、社会の発展に貢献する人材を育成する。
本年度の重点目標	1 農業専門高校として、「生命」「環境」「食」を育む教育を主な柱として、新しい時代に必要となる資質・能力を育成する。
	2 協働的な学びを通じて創造性と問題解決能力を育成する。
	3 自らを律して、他を思いやる心、望ましい人間関係が築ける豊かな心を育成する。
	4 生涯にわたり、健康に生きる力を育成する。
達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上)
	B 概ね達成できた。(6割以上)
	C 不十分である。(4割以上)
	D 達成できなかった。(4割以下)

山梨県立農林高等学校 校長 清水 章男

評価	4 良くできている。
	3 できている。
	2 あまりできていない。
	1 できていない。

自 己 評 価			
本年度の重点目標			
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標
1	特色ある学校づくり	スペシャリストの育成を図るための資格取得を推進	資格取得状況の把握
		問題解決能力を高めるためにプロジェクト学習を充実	農業科において1人1実践を行う
		向上心、探究心、自主・自立、連帯の精神を養うための農業クラブ活動等の充実	プロジェクト発表においては計画書にもとづいた実施と成果発表。農業鑑定競技指導の充実
		本校の歴史・伝統を理解するために「先人に学ぶ事業」を推進	本校の歴史に係る先人の生き方をおとして俳句・川柳大会への積極的な取組
2	学習指導	甲斐市との包括連携協定を締結し、地域との連携を推進	農業・林業分野、ワイン製造・流通、まちづくり、景観等を中心に取り組む
		高大連携を推進	農林大学校との高大カリキュラム連携の充実、連携会議の実施
		学習者の視点での授業改善により、「個別最適な学び」、「協働的な学び」の授業実践を推進	授業アンケート等の実施
		到達目標に準拠した、指導と評価の一体化を推進	Active School Kai Projectの取組と授業アンケートの実施
3	進路指導	学習意欲の向上を図るための多様な評価方法の開発	授業アンケート等による振り返りと生徒との懇談の実施
		基礎学力の向上と家庭学習の習慣への定着を図るための学習指導の開発	全校体制での計算力向上の取り組みアプリ等の活用により課題に取り組む
		早い段階で生徒・保護者の進路希望を把握し、組織的な指導体制を充実	進路希望調査・個別懇談の実施
		HR・学年・学科・進路指導係などの連携を密にし、組織的な進路指導の充実	インターンシップ・デュアルシステムの実施
4	生徒指導	生徒の希望に応じた企業の幹旋や進学先に対して積極的なサポートし進路実現を充実	進路ガイダンスの実施
		生徒一人ひとりのマナー・コミュニケーション能力を高めるために外部講師等と連携を推進	BYODを機能させた進路実現への指導の充実
		組織的な生徒指導を確立するために全教職員が共通理解のもと指導	総合的な探究の時間での実施
		生徒理解を深め、安心して学べる環境づくりを推進	関係者会議の実施及び外部機関との連携
5	道徳教育 安全教育	生徒の悩み・相談に丁寧に接し、教育相談体制を充実	アンケートの実施・HR活動の充実に取り組む
		三者懇談・家庭訪問等を積極的に実施し、保護者との連携・協力体制を充実	外部機関との連携による生徒対応を行う
		「自主・自立を育む指導」に心掛け、意欲的な姿勢で自ら学ぶ教育を推進	個別懇談の実施
		健康で規律ある学校生活が送れるよう基本的な生活習慣の確立	状況により三者懇談の実施
6	道徳教育 安全教育	夢と感動のある学び舎を実現するために、特別活動を推進	生徒主体の生徒会活動の実施
		生徒の実践的な防災行動の定着を図るため、交通安全や防災・防犯の指導を充実	農業科におけるプロジェクト学習の実施
		いじめアンケート・学校評価アンケートの実施	マナーアップ運動の実施、HRIにおける集団作りの充実に取り組む
		講演会などをとおして、自己の在り方・生き方について考えさせ、道徳教育を推進	体育・文化・委員会活動を生徒が主体となり実施
7	道徳教育 安全教育	健康で規律ある学校生活が送れるよう基本的な生活習慣の確立	いじめアンケート・学校評価アンケートの実施
		夢と感動のある学び舎を実現するために、特別活動を推進	地域と連携した防災キャンプ(防災講話含む)を実施、振り返りと生徒防災リーダーによる啓発
		生徒の実践的な防災行動の定着を図るため、交通安全や防災・防犯の指導を充実	道徳教育全体計画に基づき取り組み、振り返りを行う
		講演会などをとおして、自己の在り方・生き方について考えさせ、道徳教育を推進	

学校関係者評価	
実施日（令和7年2月13日）	
評価	意見・要望等
評価	・「オギノ」や「いーなどうぶ」などで、一部販売コーナーを設置できると農林高校の内容が一般市民への周知にも繋がる。また、甲斐市の特産品である「やほたいも」を使って、ふるさと納税に繋がるような加工品などの商品が出来るように更に良いと思います。
	・資格取得指導、PBL学習実践数、農業クラブ活動の充実について、来年度に向けた改善計画を是非お願いします。
	・高大連携や地域との連携を進めることで教育資源を広げ、地域の人材を活用した特色あるPBL科目の展開もよい。
	・今年度は特に甲斐市との地域連携は推進できていると思ったが内容を知らない保護者も多い。次年度はより深い連携と周知を望みます。一方で資格取得やプロジェクト学習などは「一定の計画」を推し進めないで取得率や成果が見えにくいと思うるので、年度初めから生徒と一緒に取り組んでいただきたい。
2	・農林高校ならではの特色を十分に生かし、学校経営がなされている。
	・早急にBYODの活用教員数を増やすこと、ICTの活用をすすめる必要があると思います。教員に向けた研修を学内で定期的に行うことは有効かもしれません。
	・グローバルな教育を推進するために、現在英語教育をどのように展開し、今後どのようにしていくのか計画があればよい気がします。
	・教師は授業で勝負。難しいことをいかにわかりやすく教えるかを追究し続ける必要がある。高等学校であっても、わかる授業、楽しい授業を生徒たちに對して行わなくてはならない。日々の個々の先生による授業改善を来年度に期待したい。
3	・学生の将来にとって重要な進路指導体制ができていることは高く評価されると思います。
	・外部人材を活用した講座を開催していることは、学生の社会人力を高める上でとても評価できると思います。
	・PBLを通じてコミュニケーション能力を開発していくことは、社会人力を高めて就職や進学にも有利になると思います。
	・今後、中学校に積極的に向かいPRしてもらい、中学校でも入学してから卒業するまでの見通しを早めに持たせ、学習意欲の喚起を一層図りたい。
4	・早期の進路希望の把握と、それに応じたサポートが適切になされている。
	・ヘルメットの着用も点検するだけでは普及するのは難しいと思いますので、たとえば警察による交通事故の学習などの啓発活動を積極的に行い、まずヘルメット着用の重要性を十分認識してもらうとよいかもしれないと思いました。
	・学校任せにしないために、学校で指導した内容などをフィードバックしてもらい、家庭と一緒に進んでいくことが求められていると感じる。中学校においても生徒会を活用した、自律的な活動もより推進したい。
	・生徒が毎日生活する「学級」の役割は大きい。生徒同士、生徒と教師の関係性を一層良好にしたい。また、いじめや気になる言動等に関しては、担任がより積極的に学級指導に関わっていくことが求められていると感じる。中学校においても生徒会を活用した、自律的な活動もより推進したい。
5	・生徒アンケートの結果から先生方が生徒の悩みや相談に親身に対応していることがわかる。
	・自転車利用者のヘルメット着用率がやや低いのでその必要性を理解させるとともに、継続した指導が望まれる。
	・生徒と教師のより良い関係づくりが大事なのでしょう。生徒に寄り添った生徒指導をお願いしたい。
	・選別・欠席についての課題は深刻なように思います。教員が注意するだけでは難しいと思いますので、インターンシップなど社会や外部との接点を増やすことで自覚を促すことで改善する可能性があるのではと思いました。
6	・人権教育として、たとえば外部講師によるハラスメントやジェンダーに関する啓蒙教育、また性教育も避妊などに狭く限定せず少子化や不妊治療などを含めた幅広い生殖に関する医学的な教育も高校生にはよいかもしれないと思いました。
	・「基本的生活習慣」や「挨拶」などを生徒が主体的に行動するように取り組むのは、学校ばかりでなく保護者の協力も必要だと思える。
	・交通安全や防災、防犯に関し、日頃先生方が意識して取り組んでいると感じる。
	・人権教育については、生徒の目線に立て、性差に関することについて意見交換を行うなどしながら、他者を尊重する態度や意識の高まりを今後も図ってもらいたい。